

写真で何を伝えるのか



満員の会場で講師の説明も気合いが入る



66人の広報担当者が講師の説明に釘付け

第一資料印刷株式会社が運営するオンデマンド印刷総合サイト「ガップリ!」は、リニューアルオープンを記念して6月25日(水)に品川の富士ゼロックスエピセセンターで無料セミナーを開催した。企業や病院、学校、団体などから定員を上回る66人の広報担当者が参加した。テーマは「広報紙写真セミナー」。参加者に写真撮影の基礎と効果的な紙面の演出方法を学んでもらい、広報紙の利用価値を高めてもらうことがこのセミナーのねらい。報道現場で40年以上の経験を持つ芝沼隆一さんと、富士フイルムイメージング株式会社 藤澤美智子さんが、広報担当者がすぐに実践で役立つ写真撮影のポイントと魅力的な広報紙の作り方を指導した。(裏面に続く)

第一資料印刷

東京・品川で無料セミナー

広報紙写真セミナーに66人

背景の建物ばかり意識すると 被写体の顔が分からないことも

建物といっしょに人物を撮影するとき、建物全体を入れようとしたりカメラマンがどンドン後ろに下がってしまいがち。そのとき人物

が建物の前に立ち止まっていると、人物が小さくなって顔が分からなくなってしまうことも。



富士フィルムイメージング藤澤美智子さん
デジカメ写真撮影のポイントを実演を交えながらやさしく解説

カメラマンが建物全体の入る位置まで下がると、次に写る人がちよよい大きい大きくなるまで前に進んでもらってから撮影すると、建物と人物がバランスよく写すことができる。

遠慮せずグイグイ前に来てもらうことがポイント。



広報紙アドバイザー芝沼隆一さん
事例が豊富だから説明が分かりやすい

● 質問コーナー ●

Q 動きのある写真を撮るときは、撮るにはどうしたらいいですか？



A フォーカスロック(半押し)で待ち構えて撮りましょう

スポーツや運動会など動きのある写真を撮るには、フォーカスロック(半押し)を使い、あらかじめピントを合わせて待ち構えて撮りましょう。

連写機能のあるカメラなら、連写機能を使ってみるのもいいでしょう。ただしコンパクトカメラのは、連写スピードが遅い機種もあるのであらかじめ練習してから撮ってみてください。

写真は引き算 ムダを省くと主題がハッキリ 読者にアピールする写真になる

自分の目とレンズは違うもの。大きく写したつもりでも、意外と小さく写っていることも。全景を入れてしまうと余計なものまで写り込み、つまらない写真になってしまう。

写真は引き算、何を伝えたいのか、一番写したいものは何かハッキリさせ、余計なものを省くと読者にアピールする写真になる。余計なものが写っていたら、トリミングして伝えたいものをクローズアップさせること。

イベントや講演会は看板を省くことで主題を際立たせる。イスや脚立などの上に立って「参加者の手元を撮る」「天井を写さない」ことが大切。

広報紙 つくるなら **ガップリ!** におまかせ

検索

大きな写真は訴求力が違う キレイな印刷で魅せる広報紙を!



ご注文お待ちしております

<http://www.gappri.jp/>

「写真は大きいほど効果がある」。写真の持つ表現力、伝達力が読者に直接インパクトを与えるからです。いい写真があればほかに何もいらぬほど、広報紙作りに写真の存在は欠かせません。

ガップリ!のオンデマンド印刷は写真印刷がキレイ。だから、大きな写真で訴求力が強い広報紙を作ることができます。さらに、広報紙を発行するみなさまが安心して紙面を作れるよう、紙面の編集からレイアウト、写真撮影のことなどさまざまなサポートをしています。紙面づくりで困ったらガップリ!に気軽にご相談ください。

● 広報紙に関するお問い合わせ ●

オンデマンド印刷なら **ガップリ!** 第一資料印刷株式会社
オンデマンド印刷事業部

〒162-0818 東京都新宿区築地町4番地 神楽坂テクノス4階
TEL 03-5227-1728 FAX 03-3260-5938
E-mail print@gappri.jp